

# ある日の育児日記から

(87)

佐藤 和代



この間、圭が友達の家から帰ってきて、しみじみ言うのです。「Hちゃんの弟ね、Hちゃんのこと、おねえちゃんって呼ぶんだよ。いいなあ。あら、そんなことがうらやましいのかな、と不思議がっているところがやってきて「けい！ ぼくのシールどこにやった？」：うーん、やつぱり呼び捨てより「おねえちゃん」がいいか。でもわが家では「おねえちゃん」というと私の姉をさします（本当は「おばさん」なのだけど）。圭のことをおねえちゃんと呼ぶとすると、姉はやっぱ「おばさん」かなあ。すると今「お

ねえちゃん」と呼ばせている義妹をどうしよう。呼び名っていうのは、どうしてこうややこしいのでしょうか。名前前で呼びあえばすっきりする、というわけか、圭の友達に全員名前前で呼びあっている家族がいます。お父さんは「てっちゃん」おばあちゃんは「ひろのちゃん」。これもいいなあと思うけれど、小さい子がお父さんに「てっちゃん、まだ寝てんの！」なんて言うのを聞くと、まてまてやつぱり変だぞ、とも思うのです。私は子どもに「和代、さっさと行け！」なんて言われたくないなあ。身についた道徳観念なのか、それとも単に「おねえちゃんって呼ばれない」という圭と同じなんでしょうか。

